

## 地 域 再 生 計 画

### 1. 地域再生計画の名称

産業や文化等の担い手を確保し、島を活性化させるみなとづくり計画

### 2. 地域再生計画の作成主体の名称

香川県、三豊市、仲多度郡多度津町

### 3. 地域再生計画の区域

三豊市及び香川県仲多度郡多度津町の区域の一部  
（多度津港、栗島港及び本村漁港）

### 4. 地域再生計画の目標

#### 4—1 地域の現況

香川県西部に位置する塩飽諸島は、大小併せて28の島で構成され、その内13の島が有人島であり、行政区域としては坂出市・丸亀市と今回、当該再生計画を実施する三豊市及び多度津町の3市1町に属している。

三豊市の有人島は、栗島と志々島の2島であり、ともに瀬戸内海国立公園内に含まれており、漁業が産業の中心となっている島である。

栗島へは本土から定期航路で15分、志々島へは本土から定期航路で20分と比較的本土に近く、本土と高次の日常生活圏を形成している。

栗島には、かつて日本最古の海員学校があり、海運業界に多数の人材を送り出している。また、近年は瀬戸内国際芸術祭の開催地となっており、開催期間中は多くの観光客が島を訪れている。

志々島は、古い町並みや花の段々畑があり、何度も映画のロケ地となった島であり、昨今の離島ブームと相まって年間5,000人以上が島を訪れている。

両島には、栗島海洋記念館（栗島）、大楠（志々島）を始め、文化財が数多く存在し、これらの文化財は島のシンボルであり、住民が愛着を持って維持管理を行っている。さらに栗島では、住民個人による「ぶいぶいがーでん」などのオリジナル観光スポットの創設や若手アーティストによる栗島芸術家村事業（AIR）の実施、志々島では、島への移住希望者を対象とした島の環境を体験しながら文化と歴史を学ぶイベントの開催等、両島においては地域の活性化を目指した新たな取り組みがなされている。

多度津町の有人島は、多度津港の北西7.4kmの沖合いにある高見島と、多度津港の北西14.8kmの沖合いにある佐柳島の2島である。

高見島は周囲 6.5 kmで、龍王山（標高 297.3m）を中心に南北に長い円錐型の島である。佐柳島は、周囲 6.9 kmで、高登山（標高 248.5m）を中心とした南北に細長い島である。両島ともに漁業が産業の中心であり、農業は畑作が中心で自家消費的な生産にとどまっている。

平成 17 年における 4 島の人口は 598 人であったが、5 年後の平成 22 年には 464 人となり、人口の減少が進んでいる。また、4 島共に高齢化が著しく、平成 22 年の高齢人口比率は、栗島が 76.5%、志々島が 66.7%、高見島が 79.1%、佐柳島が 85.2%と非常に高い数値を示している。

4 島の主要な産業である漁業においては、平成 17 年には 162 人であった漁業従事者数が平成 22 年には 136 人となり、その後も減少が続いている。

#### 4—2 地域の課題

平成 22 年における栗島の人口は 289 人であり、平成 17 年の 349 人から人口の減少が進んでいる。また、主要産業である漁業は、70 歳代以上の漁業従事者が全体の 6 割を占めており、高齢化が著しく、担い手不足が深刻化している。

本土と栗島を結ぶ交通機関は、詫間港と栗島港を結ぶ 1 日 8 便の定期航路が唯一の手段であり、島の住民の生活を支えている。

栗島港では浮桟橋を漁業作業時や定期船の発着に使用しているが、この浮桟橋はコンクリートバージ船として昭和 50 年に製作後、平成 3 年から栗島港で利用しているため、老朽化に伴うコンクリートの剥離や鉄筋の露出、軽微なひび割れ等が多数発生している。

また、荒天時には浮桟橋が波浪により大きく動揺し、浮桟橋に係留するチェーンの破断が発生して毎年のように補修を行っている。しかし、港内には代替施設がなく、また、定期船の欠航は島の生活に大きな影響を与えるため、浮桟橋を利用しながらの補修作業を余儀なくされ、補修が完了するまでの期間中は安全面に大きな問題が生じている。今後、大規模な補修が発生した場合には、浮桟橋の利用制限により漁業や島民の生活に大きな影響が出ることが懸念されている。

平成 22 年における志々島の人口は 24 人であり、平成 17 年の 30 人から人口が減少している。また、主要産業である漁業は、70 歳代以上の漁業従事者が全体の 6 割を占めており、高齢化が著しく、担い手不足が深刻化している。

本土と志々島を結ぶ交通機関は、詫間港と志々島にある本村漁港を結ぶ 1 日 3 便の定期航路が唯一の手段であり、島の住民の生活を支えている。

本村漁港においても栗島港と同様に浮桟橋から定期船が発着しており、多くの観光客が訪れる 5 月の連休期間中や 8 月の海水浴シーズンには、定期航路を運営する㈱栗島汽船によると、一便で 50 人を超える乗客が乗下船を行う。

この浮桟橋は FRP+鋼製でフロート浮体のため、重量が軽く重心が高い構造であ

るため、一度に大勢の乗客が浮棧橋に殺到すると、浮棧橋がバランスを崩して大きく傾き、乗客が浮棧橋から海へ転落する危険性がある。

また、この浮棧橋は漁港の外側に設置されているために、波浪の影響を受け易く、荒天時には定期船が浮棧橋に接岸することができない。

平成１７年における高見島の人口は７３人、佐柳島の人口は１４６人であったが、５年後の平成２２年においては、高見島の人口は４３人、佐柳島の人口は１０８人と人口の減少が進んでいる。また、両島の主要産業である漁業において、高齢化が著しく、また、担い手不足も深刻化している。

高見島の高見港と佐柳島の佐柳港には、近年大型化する漁船に対応した船揚場がなく、人口の減少及び高齢化により、島内での漁船のメンテナンスや修理を行う人材確保も困難な状態である。

そのため、遠く小豆島でメンテナンスや修理を行う場合もあり、労力・費用面において漁業従事者は大きな負担を強いられており、高額な漁船のメンテナンス・更新費用等を理由に今後も島民の漁業離れが進むことが懸念されている。

#### ４―３ 計画の目標

こうした状況を踏まえ、港湾と漁港において、浮棧橋の更新や船揚場の整備を一体的に行うことにより、４島の住民が安心して暮らすことができる基盤づくりを進め、主要な産業である漁業や文化等の担い手を確保し、交流人口の拡大によって島の活性化を図る。

- （目標１） 粟島港の乗降客数の維持  
５.３万人（平成２７年度）→４.９万人（平成３１年度）
- （目標２） 多度津港内での船揚場利用漁船数の増加  
７１隻（平成２７年度）→１５２隻（平成３１年度）
- （目標３） 本村漁港の乗降客数の維持  
１.０万人（平成２７年度）→０.９万人（平成３１年度）

### ５．地域再生を図るために行う事業

#### ５―１ 全体の概要

粟島港では、島の主要産業である漁業や文化等の活動を営むための基盤づくりとして、高齢化が進む漁業従事者の作業時の負担軽減や定期船利用者の安全性確保のために、老朽化が著しく漁船や定期船の係留に支障が生じている浮棧橋の更新を行う。

漁業や文化等の担い手を確保することにより、滞在型や体験型観光等への対応が可能となり、交流人口の拡大による島の活性化が期待できる。

高見港と佐柳港では、島の主要産業である漁業や文化等の活動を営むための基盤づくりとして、漁船のメンテナンス等に係る労力・費用面の負担軽減を図るため、多度津港に船揚場を整備する。

漁業や文化等の担い手を確保することにより、滞在型や体験型観光等への対応が可能となり、交流人口の拡大による島の活性化が期待できる。

本村漁港では、栗島港と同様に、島の主要産業である漁業や文化等の活動を営むための基盤づくりとして、定期航路の利便性向上を図ると共に、高齢化が進む漁業従事者の作業負担の軽減や安全性確保のために、利用上に問題がある浮棧橋の更新と併せて、泊地浚渫の実施により浮棧橋を外郭施設の近くに移設を行う。

漁業や文化等の担い手を確保することにより、観光ニーズの多様化に対応し、滞在型や体験型観光も視野に入れつつ交流人口の拡大に努めることによって島の活性化を図る。

## 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

### (1) 地方創生港整備推進交付金【A3010】

#### [施設の種類の概要]

- ・ 港湾施設（栗島港） 三豊市
- ・ 港湾施設（多度津港） 多度津町
- ・ 漁港施設（本村漁港） 三豊市

#### [事業期間]

- ・ 港湾施設（栗島港） 平成29年度～平成31年度
- ・ 港湾施設（多度津港） 平成28年度～平成30年度
- ・ 漁港施設（本村漁港） 平成29年度～平成31年度

#### [整備量]

- ・ 港湾施設（栗島港） 係留施設
- ・ 港湾施設（多度津港） 係留施設
- ・ 漁港施設（本村漁港） 係留施設、水域施設

#### [事業費]

|            |                           |
|------------|---------------------------|
| 総事業費       | 630,000千円                 |
| 港湾施設(栗島港)  | 240,000千円(うち交付金120,000千円) |
| 港湾施設(多度津港) | 120,000千円(うち交付金40,000千円)  |
| 漁港施設(本村漁港) | 270,000千円(うち交付金170,000千円) |

## 【事業の実施状況に関する客観的な指標及び評価の方法】

| (平成/年度)           | 基準年<br>(H27) | H28    | H29    | H30    | H31    |
|-------------------|--------------|--------|--------|--------|--------|
| 指標 1<br>粟島港の乗降客数  | 5.3 万人       | 7.8 万人 | 5.1 万人 | 5.0 万人 | 4.9 万人 |
| 指標 2<br>本村漁港の乗降客数 | 1.0 万人       | 1.0 万人 | 0.9 万人 | 0.9 万人 | 0.9 万人 |

毎年度終了後に三豊市の職員が離島航路運営者に聞き取り調査を実施し、速やかに状況を把握する。

## 【事業が先導的なものであると認められる理由】

(政策間連携)

港湾と漁港を一体的に整備することにより、個別に整備するのに比べ、島ごとの特有の課題を一体的に解消できることから、4島全域で交流人口の拡大による島の活性化が期待できるという点で、先導的な事業となっている。

### 5-3 その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用するほか、「産業や文化等の担い手を確保し、島を活性化させるみなとづくり計画」を達成するため、以下の事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

#### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当無し

#### 5-3-2 支援措置によらない独自の取り組み

##### (1) 粟島芸術家村事業

内 容 毎年2名の芸術家を粟島に4ヶ月間招聘し、旧粟島中学校を拠点として作品の制作及び発表を行う。

また、芸術家が島民と共同で、粟島に残された歴史的価値のある文化遺産、自然物などの標本を収集し、収集した歴史的産物を芸術家の目線で選別、補修を行い作品化して旧粟島中学校で展示を行う。

事業主体 三豊市

実施期間 平成26年4月～

(2) 香川県塩飽海域における水域環境保全と水産資源の維持・増大のための漁場整備事業

内 容 水域環境保全と水産資源の維持・増大と漁業の生産性向上のための基盤整備を目的とし、塩飽地域で漁獲量を57t増加させることを目標として、藻礁や投石礁の設置などの漁場整備を行う。

事業主体 香川県

実施期間 平成25年4月～平成30年3月

(3) 上新田漁港 漁港施設機能強化事業

内 容 栗島にある上新田漁港において、荒天時においても港内の漁船が安心して係船できるよう、漁港内の静穏度向上のため既存防波堤の嵩上げを行う。

事業主体 三豊市

実施期間 平成26年4月～平成31年3月

6. 計画期間

平成28年度～平成31年度

7. 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

4に示す地域再生計画の目標については、計画期間の中間年度及び計画年度終了後に三豊市と多度津町が必要な調査等を行い、速やかに状況を把握する。

定量的な目標に関わる基礎データは、離島航路運営者及び各漁業協同組合からの聞き取り調査により行い、事前評価、事後評価の際にも同様の聞き取り調査を行うことにより評価を行う。

## 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

|                           | (基準年度)          | 平成29年度<br>(中間年度) | 平成31年度<br>(最終目標) |
|---------------------------|-----------------|------------------|------------------|
| 目標1<br>粟島港の乗降客数の維持        | 平成27年度<br>5.3万人 | 5.1万人            | 4.9万人            |
| 目標2<br>多度津港内での船揚場利用漁船数の増加 | 平成27年度<br>71隻   | 71隻              | 152隻             |
| 目標3<br>本村漁港の乗降客数の維持       | 平成27年度<br>1.0万人 | 0.9万人            | 0.9万人            |

(指標とする数値の収集方法)

| 項目          | 収集方法            |
|-------------|-----------------|
| 乗降客数の増加     | 離島航路運営者ヒアリングにより |
| 船揚場利用漁船数の増加 | 漁業協同組合ヒアリングにより  |

・ 目標の達成状況以外の評価を行う内容

1. 事業の進捗状況
2. 総合的な評価や今後の方針

## 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

4に示す地域再生計画の目標については、中間評価及び事後評価の内容を、速やかにインターネット（三豊市と多度津町のホームページ）の利用により公表する。